

東京女子医科大学雑誌

JOURNAL OF TOKYO WOMEN'S MEDICAL COLLEGE

第55巻

昭和60年2月25日発行

第2号

目次

東京女子医科大学学会第50回総会特集号

〔特別講演〕

甲状腺機能亢進症と甲状腺機能低下症……………鎮目 和夫…103～110

〔シンポジウム〕

“癌治療の進歩—各科における癌治療の現況と問題点—”

(序言)……………小林誠一郎… 111

肺癌治療の現況と問題点……………鈴木 忠…112～129

乳癌治療の現況と問題点……………梶原 哲郎…130～136

膵癌治療の現況と問題点……………中村 光司…137～143

卵巣癌……………吉田 茂子…144～153

<指定発言>

温熱化学療法 of 現況と問題点……………長柄 英男…154～157

癌治療における放射線療法の現況と問題点……………池田 道雄…158～161

癌化学療法の問題点……………溝口 秀昭…162～166

シンポジウムの追加・討論……………167～170

〔教育講演〕

免疫学の進歩……………吉岡 守正…171～180

「コンピューターの医学への応用」

マイクロコンピューターの医学への応用……………藤正 巖…181～186

〔原 著〕

肺血栓塞栓症の病理

—肺動脈主幹部の閉塞をきたす血栓塞栓症を中心として……

……今井 三喜・金田 良夫・榎本 直子・

石川 千鶴・豊田 智里・武石 詢…187～197

(つづく)

本誌略名
東女医大誌
J Tokyo Wom
Med Coll

東京女子医科大学学会
SOCIETY OF TOKYO WOMEN'S MEDICAL COLLEGE

東京都新宿区河田町10 東京女子医科大学図書館内

剖検例における肺癌と肺線維症の合併について	榎本 直子・ 金田 良夫・豊田 智里・武石 詢・ 今井 三喜・貝塚 秀樹・和田 寿郎	198~210
耳鼻咽喉科で経験した食道カンジダ症の臨床的検討		
一内視鏡所見を中心に	片山 修・荒牧 元・相沢 晴子・ 梅田 陽子・宮野 良隆・和穎 房代・ 藤原 陽子・川内喜代隆・定方 利恵・市岡 四象	211~215
Spontaneously hypertensive rats における Na 代謝と prostaglandin 系との関連性についての研究	高木 真理	216~228
[臨床報告]		
巨大後腹膜腫瘤を主症状とした子宮癌肉腫の 1 剖検例.....		
.....石川 千鶴・金田 良夫・榎本 直子・今井 三喜・ 桐田 孝史・倉光 秀麿・織畑 秀夫		229~232
[学術情報]		233~239
[雑 報]		240

JOURNAL OF TOKYO WOMEN'S MEDICAL COLLEGE
(TOKYO JOSHI IKADAIGAKU ZASSHI)

Vol. 55

February, 1985

No. 2

CONTENTS

Special Lecture

Hyperthyroidism and hypothyroidism Kszuo SHIZUME...103~110

Symposium

**Progress in cancer treatment —Present situation and Problems
of the cancer treatment in each department—**

Present status and problems of lung cancer therapy Tadashi SUZUKI...112~129

Current status and problem in the treatment of breast cancer Tetsuro KAJIWARA...130~136

Present situation of multidisciplinary treatment of pancreatic
 cartinoma Mitsuji NAKAMURA...137~143

Ovarian cancer Shigeko YOSHIDA...144~153

Thermochemotherapy in cancer treatment Hideo NAGARA...154~157

The present status and issues of radiation therapy for the
 many types cancer Michio IKEDA...158~161

Problems of cancer chemotherapy Hideaki MIZOGUCHI...162~166

Educational Lecture

Progress in immunology Morimasa YOSHIOKA...171~180

Microcomputer application in medicine Iwao FUJIMASA...181~186

Originals

Pathology of the pulmonary thromboembolism with special reference to obstructive
 thromboembolism of main pulmonary artery Miki IMAI, Yoshio KANEDA,
 Naoko ENOMOTO, Chizu ISHIKAWA, Chisato TOYODA, Makoto TEKEISHI...187~197

Association of lung cancer and pulmonary fibrosis Pathological study
 of autopsy cases Naoko ENOMOTO, Yoshio KANEDA, Chisato TOYODA,
 Makoto TAKEISHI, Miki IMAI, Hideki KAIZUKA, Juro WADA...198~210

Clinical studies of esophageal candidiasis at the department of otolaryngology
 —with endoscopic findings— Osamu KATAYAMA, Hajime ARAMAKI,
 Haruko AIZAWA, Yoko UMEDA, Yoshitaka MIYANO, Husayo WAGAI,
 Yoko HUJIWARA, Kiyotaka KAWAUCHI, Toshie SADAKATA,
 Shisho ICHIOKA...211~215

Study on relationship between sodium metabolism and prostagrandin in
 spontaneously hypertensive rats (SHR). Mari TAKAGI...216~228

Case Report

An autopsy case of uterine carcinosarcoma with giant retroperitoneal
 tumor Chizu ISHIKAWA, Yoshio KANEDA, Naoko ENOMOTO, Miki IMAI,
 Takashi KIRITA, Hidemaro KURAMITSU, Hideo ORIHATA...229~232

東京女子医科大学学会 第50回総会

(昭和59年 9月29日)

特別講演

甲状腺機能亢進症と甲状腺機能低下症

鎮目 和夫 教授



シンポジウム

癌治療の進歩—各科における癌治療の現況と問題点—

司会 小林 誠一郎 教授



教育講演

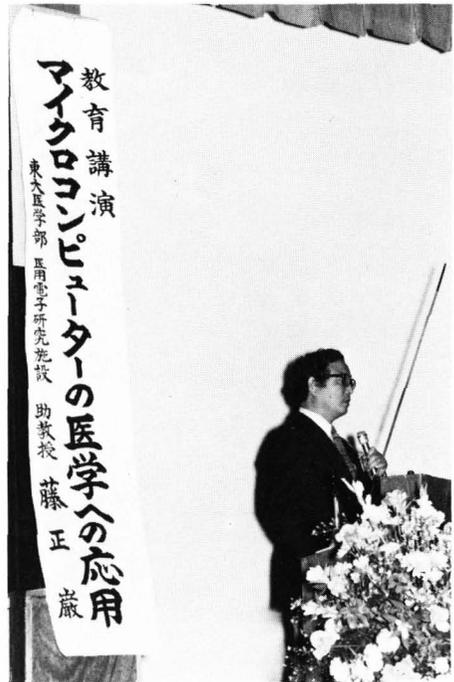


免疫学の進歩

吉岡守正教授



病院情報システムの現状と将来
主任研究員 今井健雄



マイクロコンピュータの医学への応用
助教授 藤正巖

シンポジウム

癌治療の進歩—各科における癌治療の現況と問題点—

東京女子医科大学学会第50回総会

日時 昭和59年9月29日(土)

会場 東京女子医科大学本部講堂

司会 教授 小林誠一郎

(消化器病センター所長, 外科)

(1) 肺癌治療の現況と問題点……

……助教授 鈴木 忠

(第二外科)

(2) 乳癌治療の現況と問題点……

……教授 梶原 哲郎

(第二病院 外科)

(3) 膵癌治療の現況と問題点……

……助教授 中村 光司

(消化器病センター外科)

(4) 卵巣癌……教授 吉田 茂子

(産婦人科)

<指定発言>

(5) 温熱化学療法 of 現況と問題点……

……講師 長柄 英男

(第一外科)

(6) 癌治療における放射線療法の現況と問題点

……

……教授 池田 道雄

(放射線科)

(7) 癌化学療法 of 現況と問題点……

……教授 溝口 秀昭

(内科1)

はじめに

司会 小林誠一郎

診断技術の進歩, 治療法の進歩により, 癌に対する治療成績は次第に向上しつつあるとは言うものの, 一方著しく進行した状態の癌患者も多く, これらに対する治療成績の不良なるが故に, 癌の治療成績は今一つ伸び悩んでいると言えるであろう. 早期診断, 早期治療という癌治療の原則を, 更に徹底向上せしめる問題と, 進行癌に対する最も効果的な治療法追求の問題と, 二つの大きな課題を抱え, 各分野での努力が続けられている. また, 治療法と言っても, 手術, 化学療法, 放射線治療などの多岐に亘り, 各疾患の特性により, 何れを主とし, 何れを補助とするかの選択の問題もある. 更に各部門の密接な協力による治療, いわゆる薬学的治療法も一つの診療体系として成果をあげ得るよう検討される必要がある. 今回のシンポジウムにおいては, 肺癌, 乳癌, 膵癌, 卵巣癌をとりあげ各科における治療法を通して, その進歩と現況を知ると共に, 化学療法, 放射線療法など, 各科の協力による治療の現況と, 今後の問題点などを探ってみたいと考えている.

〔Symposium〕

Progress in Cancer Treatment—Present situation and problems of the cancer treatment in each department—

は下剤，腸管刺激性の緩下剤で消炎作用も非常に強いようです。腸内の異常細菌を抑えるという，いわゆる抗菌作用も認められている。即ち炎症に対して抑制する，熱に対して寒の働きをする。大黃は大寒に当たります。牡丹皮，冬瓜子も寒。桃仁だけは平薬。非常に寒性の強い薬になっています。すなわち熱性である炎症の強い腹痛に用います。大黃牡丹皮湯が一番良く使われているのは虫垂炎です。

以上，代表的な腹痛の治療はこの三つですが，この三つを比べると身体を湯める薬，冷ます薬，中間ということになります。ですから，虚実あるいは寒熱というものの正しい判断に基いて使用してもらいたい。

2. 精神科における漢方薬使用経験

(神経精神科) 田中朱美

当科では「うつ病」は一過性の肉体的不調であると考えているが，この不調とは元氣，活氣，氣力がないことであり，東洋医学の基礎概念である氣血思想と相通ずるものがある。うつ病の肉体的自覚症状は多種多様であるが，この身体症状に対して経絡療法を試み始めたのは昭和51年であった。凝り症状，頭痛，食欲不振，胃腸症状など身体症状のみならず，抑うつ気分，苛々などの精神症状にもある程度有効であった。54年からは漢方薬使用開始，10月からは池田和広先生の漢方外来開設。うつ病の患者を東洋医学的，精神医学的の両面から診察治療を行なっている。うつ病は虚証が多いとの推定に反して意外に実証が多く，これは今後の治療の重要な手がかりとなりうる。さらに中医理論から証を深めることも今後の課題としている。12年に及ぶ難治うつ病に，柴胡加竜骨牡蛎湯有効例を示した。

日本循環器学会関東甲信越地方会 第114回例会

日 時 昭和59年12月1日(土)

午前9:00~午後6:00

会 場 日本都市センター第6・7会議室

当番世話人 小柳 仁

演 題

9:00~9:48 座長 石川 自然

1. 総肺静脈還流異常の診断における断層ドプラー法の有用性

(自治医科大学小児科)

○白石裕比湖・山元香代子・倉松 俊弘・
中島 裕司・谷野 定之・柳沢 正義

(同臨床病理) 伊東 紘一

(同病院病理) 高橋 敦

2. 稀れな単冠動脈症の1例

(東京医歯大学第3内科)

○鬼木 俊行・高梨日出雄・三角 和雄・
丸山 義昭・野村 周三・柳瀬 治・
橋本 裕二・矢島 途好・沼野 藤夫・
前澤 秀憲

3. 種々の心奇形を伴う goldenhar 症候群の1例

(東京医科大学内科第2講座)

○中島 均・後藤 義一・芦矢 浩章・
佐野 隆顕・松永 至・今泉 満・

伊吹山千晴

4. 成人に見られた三心房心の1例

(日本大学医学部第2内科)

○友利 博朗・斎藤 友昭・渡辺 昌司・
奈倉 勇爾・斎藤 顕・小沢友紀雄・
波多野道信

5. 僧帽弁閉鎖不全症に合併した膜性部心室中隔瘤の1例

(独協医科大学越谷病院循環器内科)

○井上 晃男・諸岡 成徳・林 輝美・
石塚 毅彦・石山 康子・高島 豊

6. 心内膜床欠損症と二次孔欠損を合併した1症例

(独協医科大学循環器内科)

○吉田 保志・竹田 幸一・海賀 達雄・
清水 孝彦・高橋 介・山本 英雄・
八木 繁

(自治医科大学胸部外科)

上沢 修・木村 莊介・長谷川嗣夫

9:49~10:29

座長 竹内 成之

7. 腹部大動脈瘤による消費性凝固障害の治療が困難であった1例

(千葉健生病院)

○向後富士太郎・守月るみ子・藤森 義治

長谷川吉則・花井 透

8. 心電図に虚血性変化を認めない慢性に経過した高度貧血の1症例

(杏林大学医学部第2内科)

○横田 名慈・豊福 孝夫・宮川 雅仁・
四倉 正之・白戸 千昭・柳沢 厚生・
岡田 道雄・石川 恭三

9. 収縮中期クリニック音を伴った解離性大動脈瘤の1例—超音波パルスドップラ法による成因の検討—

(東京都養育院付属病院循環器科)

○五十嵐聡明・坂井 誠・桑島 巖・
上田 慶二

(核医学放射線部)永島 淳一・山田 英夫

10. 血液透析用動静脈シャントの心血行動態におよぼす影響について—シャント作成前後での比較—

(東京慈恵会医科大学第2内科)

○大村 延博・保田 浩平・高橋 世行・
雨宮光比古・副島 道正・三枝 昭裕・
水口 正人, 亀田千賀子・佐藤 成明・
三浦 靖彦・宮原 正

11. マイクロポーラス・PVA ホローファイバを応用した超微細管粘度測法の開発

(東京医科歯科大学医用器材研究所)

株式会社クラレ・メディカル研究開発室)

○辻 隆之・戸川 達男・宗岡 克樹・
末岡 明伯

10:30~11:02

座長 小出 直

12. 左房内遊離血栓を合併したリウマチ性連合弁膜症の1症例

(東京都府中病院内科)

○稲葉 茂樹・長村 好章・堀川 良史・
菅谷 愛弓・田原由起子

(東京女子医科大学附属
日本心臓血圧研究所内科)

中村 憲司・大西 哲・橋口加奈子・
田中 建・近藤 瑞香・広沢弘七郎

(東京女子医科大学附属

日本心臓血圧研究所外科)小柳 仁

13. 演題取消

14. 人工弁置換術前正常冠動脈像を呈したが、8ヵ月後に左冠動脈主幹部狭窄をきたした心内膜下梗塞を発症した1例

(東京女子医科大学日本心臓血圧研究所
循環器内科)

○堀川 良史・本田 喬・田中 直秀・
加藤 辰也・鈴木 保孝・屋田千佳子・
片山 雄一・溝部 宏毅・金子 昇・
木全 心一・関口 守衛・広沢弘七郎

15. 大動脈炎症候群によるAAEに対してBentall手術を行った1治験例

(東京女子医科大学日本心臓血圧研究所
循環器外科)

○寺田 正次・竹村 隆広・高 英成・
秋山 一也・石原 和明・中江 世明・
橋本 明政・関口 守衛

11:03~11:43

座長 飯沼 宏之

16. 心電図異常を示した重症筋無力症の2症例:ホルター心電図による検討

(東京慈恵会医科大学青砥病院内科)

○高添 一典・工藤 知子・鈴木 裕明・
谷口 正幸・小森 秋彦・加藤 光敏・
山崎 泰範・石川真一郎・小原 芳道・
望月 正武・永野 允

17. 心室細動による失神発作を繰り返した心房中隔欠損を合併した僧帽弁逸脱症候群の1例

(都立広尾病院循環器科)

○宮崎 秀一・桜田 春水・有村 明彦・
武田 佳学・佐藤 準一・宮城 恵子・
難波 研一・江尻 成昭・徳安 良紀・
渡辺 浩二・本宮 武司

(同心臓血管外科)

永瀬 裕三・後藤 一雄・前村 大成・
紺野 進

18. 食道ペーシングにより発作性上室性頻拍症に対するPASAR Systemの作用を確認できた1例

(東京慈恵会医科大学第四内科)

○石永 隆成・小松 親義・立石 修・
徳久 靖高・高橋 郁美・吉村 正蔵

(同心臓外科)

望月 吉彦・堀越 茂樹・新井 達太

19. DDDペースメーカー植込後にみられた心房sensing不全に起因した心室sensing不全の1例

(東京医科歯科大学第2内科)

○新田 順一・桐ヶ谷 肇・青沼 和隆・
伊東 春樹・高元 俊彦・家坂 義人・
谷口 興一・武内重五郎

20. VVI pacingにおける体位変換と循環動態
(筑波大学附属病院外科)

○寺田 康・藤田 享宜・三井 利夫・
湊 直樹・福田 幾夫・井島 宏・
前田 肇・岡村 健二・酒井 章・
筒井 達夫・堀原 一・杉下 靖郎
11:44~12:24 座長 岩根 久夫

21. 洞性徐脈を伴った Repetitive Ventricular Tachycardia (Left Posterior Fascicular Tachycardia) の1例

(東京大学胸部外科) ○小塚 裕
(東京女子医科大学第2病院心臓血管外科)
須磨 幸蔵・細川 俊彦・城間 賢二・
井上 健治・竹内 靖夫

22. Transient Partial Atrial Standstill を伴った徐脈頻脈症候群の1例

(日本医科大学第1内科)
○榎方 美文・亀井真一郎・飯田 恵子・
小林 義典・斉藤 寛和・洪 基哲・
畑典 武・清野 精彦・加藤 貴雄・
早川 弘一

(同胸部外科) 松山 謙・池下 正敏
(同病理学教室) 富田 喜文・浅野 伍朗

23. 洞機能不全症候群, ASH を伴った末端肥大症の1症例

(東京大学第4内科)
○佐藤 栄一・飯利 太郎・西本 育夫・
岡部富士子・関根 今生・吉良 有三・
伊藤 敬・松本 進作・尾形 悦郎

24. 心室頻拍, 心房粗動, 洞不全症候群を合併した1小児例

(都立広尾病院小児科)
○住友 直方・伊東 三吾・小林 弘
(都立広尾病院循環器科)
桜田 春水・渡辺 浩二・本宮 武司
(日大板橋病院小児科) 大國 真彦

25. 多種類の持続型頻拍症を呈した陳旧性心筋梗塞の1例

(昭和大学藤が丘病院循環器内科)
○清水 和彦・日鼻 靖・矢崎 吉純・
長田 洋文・春見 建一
12:25~1:05 座長 比江嶋一昌

26. Arrhythmogenic right ventricular dysplasia の電気生理学的薬理的検討

(草加市立病院循環器科)
○遠藤 岳・武永 強・佐藤 和人・

芳田 久・諸井 幸夫・佐竹修太郎・
鈴木 文男

(東京医科歯科大学第1内科)

平尾 見三・久保 一郎・鈴木 文男・
比江嶋一昌

27. 左心機能低下が示唆され, 起源の異なった心室頻拍を誘発し得た arrhythmogenic right ventricular dysplasia の1例

(土浦協内病院循環内科)

○雨宮 浩・梅澤 滋男・野上 昭彦・
古川 哲夫・藤原 秀臣

(東京医科歯科大学第2内科)

家坂 義人・谷口 興一

28. 経過中右室内に血栓の出現をみた Arrhythmogenic right ventricular dysplasia (ARVD) の1例

(埼玉医科大学第2内科)

○浅野由起雄・内山 敏男・宮本 直政・
内藤 恒克・井出 雅生・田嶋 経躬・
土肥 豊

29. Arrhythmogenic Right Ventricular Dysplasia (右室異形成症) の2例

(自衛隊中央病院内科)

○堀内 賢二・箱崎 幸也・勝然 秀一・
松井 寛輔・日向 正明・川口 茂・
尾形 滋・大富 真吾・松崎 中
(三宿病院循環器科) 太田 怜

30. 多彩な心室内伝導障害を呈した収縮性心外膜炎の1剖検例

(東京医科歯科大学第3内科)

○山下 勝弘・難波 研一・柳瀬 治・
矢島 途好・沼野 藤夫・前沢 秀憲

(東京医科歯科大学難研循環器病部門)

平岡 昌和

(三楽病院内科) 久保田昌良・岸 幸夫

(東京医科歯科大学口腔病理) 岡田 憲彦

(順天堂大学循環器内科) 岡田 了三

1:06~1:54 座長 小林 正樹

31. 肥大型心筋症に合併した ST 上昇型狭心症2例の検討

(東京警察病院循環器センター)

○植田 桂子・井上 清・桑木 一・
本間 靖子・白井 徹郎

32. PSVT により心筋梗塞の発症をみた肥大型心

筋症の1例

(新潟市民病院循環器科)

○苅部 智子・甲田 豊・佐藤 広則・
樋熊 経雄

33. 特に後壁に肥大の著明な肥大型心筋症を合併した心房中隔欠損症の1例

(虎の門病院循環器センター内科)

○加藤 健一・西山信一郎・今井 進・
大島 茂・代田 浩之・近藤 邦夫・
西村 重敬・中西 成元・関 顕

34. 多彩な心症状を呈した進行性全身性硬化症の1剖検例

(聖路加国際病院内科)

○阪 聡・峰石 真・山科 章・
林田 憲明・五十嵐正男

(同病理) 山本 隆一・斉木 茂樹

35. 悪性リンパ腫の心筋浸潤により拘束型心筋症様の血行動態, 心不全を呈した1例

(慶応義塾大学医学部内科呼吸循環科)

○吉田 輝彦・宮崎 利久・盛 英三・
西川 泰弘・横塚 仁・藤井 効・
小川 聡・山崎 元・平田俊之介・
中村 芳郎

(同血液内科) 外山 圭助

(同放射線科) 近藤 誠・伊藤 久夫

(同病理) 山崎 一人・細田 泰弘

36. レイノー症状を合併した筋緊張性ジストロフィーの1症例

(山梨医科大学第2内科)

○藤巻 信也・栗原 淳・吉崎 哲世・
田村 康二

1:55~2:35 座長 上松瀬勝男

37. 経皮的冠状動脈修復術(PTCA)が施行された1剖検例—同法施行部位の病理組織学的検討—

(東京女子医科大学第2病理)

○森本紳一郎・本多 忠光・梶田 昭
(同心研内科) 高橋 弥生・鈴木 紳

(同心研外科) 遠藤 真弘

38. 不安定狭心症に対する緊急PTCR, PTCA併用の経験

(東邦大学循環器診断センター)

○中野 元・矢部 喜正・小山 信弥・
大沢 秀文・山崎 純一・内 孝・
奥住 一雄・宮入 誠

(同第1外科) 小松 寿・伊藤 信行

(同第1内科) 森下 健

(同第2内科) 斉藤 徹・上嶋権兵衛

39. 左冠動脈主幹部スパスムの3例

(三井記念病院循環器センター内科)

○竹内 弘明・大野 実・竹永 誠・
原 和弘・常吉 秀男・榎田 光夫・
桑子 賢司・山口 徹

40. 無痛性下壁側壁硬塞に合併し, 救命し得た仮性左室瘤の1例

(国立病院医療センター循環器科)

○岡田 雅彦・大国 雅子・松尾 史朗・
斉間 茂樹・山沖 和秀・中村 雄二・
岸本 道太

(同心臓血管外科) 田中 尊臣・野田栄次郎

(同病理) 浅野 正英

(東京大学医学部第2内科) 井上 博

41. 左室後側壁の心室瘤を起源とし, 特異的冠動脈所見を示した心室頻拍の1例

(帝京大学医学部第2内科)

○石川 康朗・武士 仁彦・田村 治・
渋谷 正直・馬場 茂樹・貝瀬 昌昭・
田村 勤・佐藤 友英・宮下 英夫

(国立循環器病センター内科)

伏島 堅二・大江 透

2:36~3:24 座長 井上 清

42. 冠動脈瘤をきたした大動脈炎症候群の1例

(横浜市大第2内科)

○大沢 純子・落合 久夫・神野 雄三・
星野 真伸・小林 英雄・宮崎 直道・
吉村 史・小林 公也・博田 定・
金子 好宏

43. 急性心筋梗塞発症と気象の関連

(市川相互病院循環器内科)

○須田 民男・末松 隆二

44. 23歳男性に発症した急性心筋梗塞の1例

(横須賀市立市民病院循環器科)

○広戸誠治・太田 敬史・長沢 孝・
朝比奈 茂・日隈菊比呂

45. 産褥期急性心筋梗塞の1症例

(日本赤十字社医療センター循環器内科)

○小堀 悦孝・沼口 正英・日吉 徹・
長谷川 淡・田中 政・新谷富士雄

46. 突然死をきたした成人の川崎病(MCLS)後遺

症の1剖検例

(順天堂大学循環内科)

○粕谷 秀樹・藤原 直、桜井 秀彦・
加納 達二・岡田 了三・北村 和夫

(順天堂大学第一病理)

和田 了・寺柿 政和・福田 芳郎

47. 巨大動脈瘤を伴った左右冠動脈-肺動脈瘻の1例

(心臓血管研究所)

○江波戸文賢・相沢 忠範・西村 健司・
小橋 一成・佐藤 広・岡部 昭文・
沢田 準・藤井 諄一・渡辺 熙・
太田 昭夫・加藤 和三

3:25~4:05 座長 鈴木 忠

48. 急性心筋梗様心電図を呈し、²⁰¹Tl心筋シンチグラフィ(SPECT)にて一過性に広汎な欠損像を認めた褐色細胞腫の1例

(日本医大集中治療室)

○高田加寿子・清野 精彦・西 和紀・
大矢 智恵・島井新一郎・洪基 哲・
田中 啓治・加藤 貴雄・高野 照夫

(同第1内科)

長野 具雄・早川 弘一・奥村 英正

(同第3内科)若林 一二

49. 肺病変を伴ったVasculo-Behçetの1例

(国立東京第2病院循環器科)

○古野 泉・石木 基夫・井尻 昌生・
三谷 勇雄・宮入 誠・福原 俊一・
石川真一郎・内藤 政人・名越 秀樹・
本田 正節

(同内科)西海 正彦

(同放射線科)岩田 美郎

50. 原発性肺高血圧症における血管拡張剤の血行動態に及ぼす影響について

(信州大学第2内科)

○赤羽 邦夫・本間 達二・田村 泰夫・
渡辺 秀彦・佐々木康之・原 卓史・
富岡 一郎・平賀 賢・米倉 宏明・
小林 武司・古田 精市

51. 右肺動脈内血栓の1例-NMRの診断上の有用性について

(千葉大学第3内科)

○青柳 裕・榊原 誠・高須準一郎・
今井 均・諸岡 信裕・渡辺 滋・

増田 善昭・稲垣 義明

(同第1病理)高橋 淳・岩崎 勇

52. 肺動脈主幹部閉塞をきたした右室粘液腫の1例
(信州大学第1内科)○豊福 利彦・山田 博美・河野 純・
三沢 卓夫・曾我 直子・本郷 実・
大久保信一・草間 昌三

(同第2病理)中村 智次・発地 雅夫

4:06~4:46 座長 村松 準

53. 慢性滲出性出血性心外膜炎の1剖検例

(代々木病院)

○三浦 弘史・本間 章・園田 久子・
並木 真生

54. 右心不全を主徴とし心室性不整脈にて死亡した慢性心筋炎の1例

(亀田総合病院心臓血管センター内科)

○西村 文朗・中村 尚己・長坂 英雄

(同外科)

亀田 隆明・鈴木 隆三・外山 雅章

(順天堂大学)岡田 了三

55. 臨床上加張型心筋症の病態を呈した慢性心筋炎の1剖検例

(昭和大学第3内科)

○長谷川茂夫・向井 英之・丹野 文博・
井上 紳・八井田 真・巖山 陽一・
片桐 敬・新谷 博一

(同第2病理)九島 己樹・田代 浩二

56. 心膜開窓術により軽快しえた Massive pericardial effusion の1例

(神奈川県立こども医療センター循環器科)

○鍋木 陽一・堀米 仁志・康井 制洋・
西島 信・宮沢要一朗・宝田 正志

(同胸部外科)

小石沢 正・大川 恭矩・伊藤 健二

57. 大動脈弁置換術後、3週間で収縮性心膜炎をきたした1剖検例

(東京都済生会中央病院内科)

○宇井 進・中川 晋・片山 久・
三田村秀雄・木村 満

4:47~5:19 座長 内田 康美

58. 本態性高血圧における左室心筋重量と Romhilt の point score system の関係について

(北里大学内科)

○倉持 公博・中神 源一・遠山 博・

- 上島 十郎・加藤 陽一・村松 準・
木川田隆一
59. Hypertensive Crisis の後、一過性の心機能低下
を認めた Pheochromocytoma の 1 症例
(榊原記念病院循環器内科)
○藤原 高明・清水 陽一・林 孝和・
伊藤 幸義・阿部 光樹・田中 寿英・
松田 三和
(東京女子医科大学内分科) 伊藤悠基夫
60. 血行再建術を行った外傷性腎血管性高血圧症の
1 例
(横浜市立大学第 1 外科)
○井元 清隆・近藤 治郎・相馬民太郎・
蔵田 英志・尾崎 直・田村 寿康・
小尾 芳郎・関戸 仁・原田 弘秋・
松本 昭彦
61. 高血圧症を合併した腎過誤腫の 1 例
(東邦大学第 3 内科)
○諸井 雅男・松井 満治・西脇 博一・
安部 良治・矢吹 壮・町井 潔
(東邦大学大橋病院泌尿器科)
松島 正浩・田島 政晴・高波真佐治
(東邦大学大橋病院病理部) 跡部 俊彦
(東邦大学大橋病院放射線科) 桑島 章
(津田沼中央病院) 峰須賀輝男
- 5 : 20 ~ 5 : 52 座長 佐藤 友英
62. 特異な経過を示した腎血管性高血圧症の 1 小児
例
(東京女子医科大学心研小児科)
○寺井 勝・中西 敏雄・中沢 誠・
野島 恵子・安藤美智子・高尾 篤良
63. 心不全に合併した重症低 Na 血症に高張食塩
水・フロセマイドが著効を示した 1 例
(公立昭和病院循環器科)
○大垣 憲隆・関根 信夫・定 利勝・
俵 穆子
64. ニトログリセリン静注の左室機能に及ぼす影響
(防衛医科大学校第 1 内科)
○宮本 明・鳥越 俊彦・瀬口 秀孝・
荒川 宏・渋谷 利雄・里村 公生・
近藤 修二・大鈴 文孝・青崎 登・
栗田 明・細野 滑士・中村 治雄
(同救急部) 水野 杏一
65. Digitalis 服用患者における運動負荷 ST 下降
の特徴
(関東通信病院循環器内科)
○元山 幹雄・川久保 清・坂本 静男・
伊佐地 隆・小野 彰一・板井 勉・
加藤 紀久・村山 正博

雑 報

○編集幹事会

日時 昭和59年12月3日午後3時より
 場所 学術室
 議題 東京女子医科大学雑誌第55巻2号編集
 その他

○集会幹事会

日時 昭和59年12月11日午後4時30分より
 場所 学術室
 議題 51回総会の件
 第262回例会の件
 第263回例会の件
 その他

編 集 後 記

論文の査読経験は勿論ないわけではないが、編集委員ともなり、定期的に専門外の論文を読んで判定しなければならないとなると、かなり一生懸命読まなければならない。一生懸命読めば当然のことながら、ここをこういう風にかきかえたらもう少し分り易くなるのではないか、などといろいろと出てきて、つい越権的なことを考える。とくに、原著や臨床報告などで、若い方々がおそらく苦心して書かれたのであろうと思われるものに、つい手を加えたくなる文章が多い。そこを抑えて、論文のポイントを頭にいれ、冷静に判断して、問題点をいくつか提起して改善への提言をするのである。

あるベテランの編集委員の先生が、一寸アドバイスをして、書き直してもらおうと、みちがえるほど良い論文になることがあると、話しておられたが、提出した論文がさし戻されると誰でもシャクにさわるから、真剣になって読み返し、文章を丁寧に書くようになるからだと思う。

何年前かに英国のある専門誌に、他大学の先生と共著で投稿したことがあったが、ここは理解できない、この英語の表現ではダメというように、何回も訂正され、ありがたいと思う反面、うんざりしたことがあった。

しかし、掲載された論文に対しては大きな反響があり、別刷請求が随分きたことを思い出す。

やはり、いい論文をいい形で掲載するためには双方の努力と忍耐が必要であることを痛感した次第である。

(昭和59年12月3日, S.I.)

10) 図, 表, 写真 図, 表, 写真は本文とは別紙とする。図は図 1, 図 2… (Fig. 1, Fig. 2…), 表は表 1, 表 2… (Table 1, Table 2…), 写真は写真 1, 写真 2… (Photo 1, Photo 2…) のように番号をつける。

図, 表, 写真には, 番号と共に, 必ず表題をつける。図, 写真の表題は下に, 表の表題は上に記入する。

写真は手札版が望ましく白黒明瞭なものに限る。アート紙の場合は刷上り実寸大のもの, 電頭写真にはバーを入れる。

スライド焼付の図は原図を添付する。原図および表の大きさはA4版以内とし, 白紙あるいは青色方眼紙に黒色で明瞭に書く。

原色版 (カラーアート紙) はスライドを添付する。実費は著者負担とする。

提出された図, 表が印刷に耐えない場合は, 改めて図, 表を作製し直すことがある。その実費は著者負担とする。図, 表および写真の挿入箇所は, 本文原稿右側欄外に, 図, 表, 写真の番号を明記して示す。

11) 文献

(1) 引用文献

論文に直接関連する文献に限り, 引用順に一連番号をつけて, 論文末尾に記載し, 本文中の引用箇所には, 右上肩に片カッコを付した番号で示す。

(2) 雑誌名

文献に掲出する雑誌名は, 略さないのが望ましい。略名を用いる場合は, 外国誌は, Index Medicusにより, 和雑誌は, 各誌の表紙に示してある略名による。

(3) 文献引用例

a. 雑誌論文の引用

著者名 (必要数): 論文名. 雑誌名 巻数 (号数) 引用通巻頁数 (a~m) (発行年) の順序とする。巻 (号) 頁 (年) の間に, 「,」は不要。

著者・共同研究者名は, 姓—family name—, 名前—first name, middle name—, の順に, 日本人名は姓, 名前の順に列記する。名前は頭文字 1 字でもよい。

共著者多数の場合は, 「・ほか」または「et al.」と省略してもよい。

例 i) 松林花子・ほか: 要保護女子における精神障害の実態と長期経過観察例. 東女

医大誌 51 (6) 531~552 (1981)

例 ii) Vaughn, K.C., and Duke, K.C.: Histo-chemical localization of nitrate reduct-ase.

Histochemistry 72(2) 191~198 (1981)

例 iii) Spathas, D.H. et al.: Polyamine transport in aspergillus nidulans. J Gen Microbiol 128(3) 557~563 (1982)

b. 単行本あるいは叢書の一部からの引用

著者または編集者名, 翻訳者名: 書名. 版次引用頁 (b~n) 発行書店名 発行地 (発行年) [編者名: 叢書名 巻数 巻名 版次 引用頁 (b~n) 出版書店名 発行地 (発行年)] の順とする。

例 iv) 杉山竹夫: 医学免疫学. 第 2 版 東京大学出版会 東京 (昭 57) 80~83

例 v) Valtin, Heisz, 飯田喜俊監訳: 腎臓病一病態生理と臨床. 53 頁. メディカル・サイエンス・インターナショナル 東京 (1982)

例 vi) Campbell, Charles D.: Aneurysms surgical Therapy. 47~78. Futura, Mount Kisco (1981)

例 vii) Blasecki, John W.: Mechanisms of Immunity to Virus-Induced Tumors [Immunology series 12] 96~98. Marcel Dekker, New York (1981)

5. 雑誌の編集・発行 編集委員会は編集幹事によって構成され, 本誌の編集・発行に関する責任と権限をもつ。

編集委員会は投稿原稿を査読し, 採否を決定する。編集委員会は原則として毎月 1 回開催する。論文の掲載は受付順を原則とする。

本誌の発行は年 12 回, もしくは 11 回とする。

6. 校正 初校・再校は著者校正を原則とする。大幅な改変や訂正は許されない。

7. 別刷 別刷は著者実費, 50 部単位で申込みを受ける。発行後の追加は認められない。

8. 寄稿の宛名

〒 162 東京都新宿区河田町 10 番地

東京女子医科大学学会編集幹事宛

(事務所は東京女子医科大学図書館学術室内)

Tel. 03 (353) 8111 内線 2233

東京女子医科大学学会会則

(雑誌の発行・編集に関する条項抜萃)

第3条 本会の目的を達するため次の条項を行なう。

1. 集会 2. 雑誌発行

第10条 幹事は会長が指名し、会計、集会、編集、その他の事務を分掌する。

第13条 本会の雑誌を「東京女子医科大学雑誌」と称し、年12回もしくは11回発行し、本会会員に配布する。

東京女子医科大学雑誌投稿規定

(昭和60年1月1日改訂)

1. 投稿の資格 投稿者は共同執筆者を含め本会会員に限る。

2. 投稿内容 本誌は原著(和文、または英文)、総説、臨床報告、調査報告、集会記録・報告などを掲載する。いずれも未発表のものに限る。

3. 経費 原著は刷上り1編につき4頁(図、写真、表、込みで400字詰16枚に相当)まで、報告(臨床、調査)、英文原著などは2頁までの経費を学会が補助する。超過頁分、アート紙、カラーアート、図、写真、トレース代、別刷代等の実費は著者負担とする。但し表は合計して2頁分(報告は1頁分)は学会が補助する。特別掲載は全額著者負担とする。

依頼原稿は全額学会負担とし、別刷50部を無料とする。

4. 寄稿細則

1) 寄稿カード 本学会所定の寄稿カードに必要事項を記入して添付する。

2) 原稿はコピーを一部添えて提出する。

3) 表紙 原稿には表紙をつけ、次の項目を記入する。

標題・著者の所属・主任あるいは指導者名(所属が2カ所ある場合は列記、あるいは一方を脚注とする)・著者の姓名(上つきでフリガナ)・別刷(著者実費)請求部数(単位50部、左余白に朱書)。

4) 抄録 原著および総説の原稿には英文抄録(約200語をダブル・スペースでタイプする)とその和訳をつける。英文・和文の内容は一致させる。英文抄録の冒頭には標題・著者名(姓は大文字)、所属(主任あるいは指導者名)

を記載する。

臨床報告、調査報告などは英文抄録不要、但し、脚注とするため、著者名(姓は大文字)・所属・標題の順に英訳を別紙に記載して、添付する。

5) 本文

(1) 和文 平易な文体で簡明に表現し、文字は常用漢字、ひらがな、現代かなづかいを用い、楷書で明瞭に書く。句読点を正しく、はっきり付ける。文中の欧文文字はタイプ、または活字体とする。

原稿はA4版、横書400字詰原稿用紙にペン、またはボールペンで書く。

ワープロ原稿はA4サイズ用紙を用い、上下3cm、左右2cmのマージン内に横書シングルスペースで打つ。

(2) 英文 簡明に表現する。論文の構成、その他寄稿細則は和文に準ずる。A4版タイプ用紙にダブル・スペースでタイプする。

英文論文には必ず和文抄録を添付する。

6) 論文の構成 原著、総説、臨床(調査)報告などの構成は、原則として、緒言(はじめに、目的)・方法(資料、対象)・結果(成績、症例)・考察・総括(まとめ、要約)・結論(結語、むすび、おわりに)および文献(引用文献に限る)とする。

7) 項目 本文の章、節、項目分けは、原則としてI, 1., 1), (1), ①…とする(第1章、第1節、第1項などとしなない)。また、A., a., a) …等を用いてもよい。

8) 数字 文中の数字はアラビア数字を用いる。単位は原則としてCGS単位(km, m, cm, mm, μ , nm, km², m², cm², mm², m³, cm³, mm³, l, dl, ml, μ l, kg, g, mg, μ g, s, ms, μ s, min, h, d等)。

9) 用語 主として文部省学術用語に従い、専門用語は学会で統一されている用語を用う。文中に度々繰返される語は略語を用いてもよいが、その場合は、最初に掲出される語は省略せず、後出の同語は略語を使用する旨、但し書きする。

外国の人名、地名は原語(タイプか活字体)で書き、日本語化している外来語は片カナで書く。文中の欧米語は固有名詞、商品名、表題、独語の名詞を除き、小文字で書く。

編 集 委 員

井 口 登 美 子	串 田 つ ゆ 香
石 井 妙 子	門 間 和 夫
石 津 澄 子	鈴 木 茂 子
◎十 字 猛 夫 郎	竹 宮 敏 子
小 林 逸 郎	田 村 敦 子
小 暮 美 津 子	東 間 紘 夫
○神 津 忠 彦	對 馬 敏 夫
日 下 部 き よ 子	横 田 和 子

ABC順

昭和60年2月20日 印刷
昭和60年2月25日 発行

東京都新宿区河田町10番地
東京女子医科大学図書館内

発行所 東京女子医科大学学会

電話 03 (353) 8 1 1 1 番 (代表)
内線 2233 番

〒162 東京都新宿区河田町10番地
東京女子医科大学図書館内

編集兼 吉 岡 守 正
発行者

電話 03 (353) 8 1 1 1 番 (代表)
内線 2233 番

〒114 東京都北区西ヶ原3丁目46番10号

印刷者 向 喜 代 次

印刷所 株式会社 杏 林 舎

電話 03 (910) 4311 (代表)

東京女子医科大学雑誌規定

○会費払込は振替口座「東京5-4342」東京女子医科大学学会宛のこと

○会費は毎年1月中に払込まれること

会 費 (購読料)

売 価

1カ年 金 6,000円

1部 金 1,000円

〒113 東京都文京区本郷3丁目35番6号大石グリーンビル3階

広 告
取扱者

株式会社 大 矢 商 会

電話 03 (813) 7031~4 番